

社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

2009年度事業報告

I 概要

フライヤー登録者数の減少に比して、技能証発行数の減少が大きく、新たにこのスポーツをはじめめる人が少ないことを物語っています。他のスカイスポーツ団体でも愛好者の減少を報告するところがあり、若者が離れていってしまっている事に危機感を抱きます。

2009年6月17日に開催された通常総会において会費値上げの提案が議決され、2010年1月より20年間以上にわたって据え置いて来ました会費（1年3,500円、3年10,000円）を改定しました。ハンググライダー、パラグライダー愛好者の減少もありますが、事故による高額な保険金の支払いが相次ぎ、2007年には約744万円、2008年は約3,453万円、2009年は5,245万円を支払いました。引受保険会社は赤字となり、2009年から一人当たり保険料が約3割の値上げとなりました。今後も保険料の大幅値上げを要求されることは必至と思われ、保険会社から保険引受を拒否される危険性も出てまいります。賠償責任保険に関する啓蒙活動も必要とされております。

2009年度の死亡事故はハンググライダー3件、パラグライダー3件発生しました。2009年度安全啓蒙活動としては、定期的なリパックにより非常時の確実な対応が取られるよう、レスキューパラシュートリパック認定証制度を4月1日より開始し、講習会、検定会の開催により、初代認定者を含め101名の方が認定証を取得しました。

2009年度のフライヤー会員有効登録者は10,524名で、昨年度に比べ6.6%減少（2008年度は対前年5.5%減少）しました。減少の歯止めとして、フライヤー会員の口座振替推進を実施し、現在は1,249名の方が口座振替をしております。

普及活動としては、日本航空協会が行っている航空スポーツ教室に協力をしており、正会員の協力によりパラ体験コースを担当し、2009年度は東京都2件、岩手県1件、兵庫県1件で開催しました。

1. 収支の現状

2009年度は、前年度の反省により決算実績に基づいた予算編成とし、毎月の経理進捗においても予測にそくした堅実な連盟運営が実現されています。そうした中、会費値上げ前の3年会費納入の比率が増えたのと、年度末3か月分の値上げ効果で収入は予算（前年比1割減予測）より高いレベルとなりました。支出については、第三者賠償責任保険保険料は約3割アップしたものの、JHF会員管理システムの更新に計上した500万円に対して、事務局のIT環境管理も含めて破格で請け負ってくれる業者が名乗り出てくれたことによって、大きく節減することができました。事務局の運営費用についても、緊急圧縮をしたレベルを維持しておりますので、本年も決算議案にありますように、大きな繰越資金を残すこととなりました。

以上、JHFの財政面での危機を克服したとご理解いただきたいと思えます。ところで、今年度は新しい法律に基づいた「公益社団法人」への衣替えを内閣府に申請する段取りとなっており、これまでの法規でも制約はあったのですが、過剰に資金を保持する法人には公益認定がおりません。

健全な収支バランスを実現し、無駄なく有効な事業に配分、減少を続けるスカイスポーツ愛好者を再び反転増加させられるような、私たちのスポーツの魅力をアピールしていくことを目指したいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2. 普及振興事業の実施

- 1) 教員検定員により教員助教員更新講習会を各地で開催し13ヶ所 84名が受講しました。教員・助教員の知識、技能の維持向上を行うことにより、JHFフライヤー会員へ安全フライトに関する啓蒙活動を推進するため。
- 2) 2008年度からの教員検定員による教員検定会にて、10名が新しく教員として活躍します。(HG2名、PG4名、MPG4名)

3. 特記事項

- 1) 第21回スカイ・レジャー・ジャパン2009inふくしまに参加
10月18日(土)～19日(日) 福島県福島市ふくしまスカイパーク
- 2) 第15回スカイスポーツシンポジウムを協賛
12月5日(土) 日本大学理工学部・駿河台校舎

II 事項別状況

1. 組織

(1) 会員数

- ア 正会員 47名
イ フライヤー会員 10,524名(2010年3月末有効登録数)
ウ 賛助会員 3名

(2) 役員構成

- 理事 9名(内会長1名、副会長1名) 監事 1名(2010年3月末現在)

2. 会議等の開催

(1) 総会

2009年	6月通常総会
開催通知	2009年3月26日(木)
開催日	2009年6月17日(水) 11:00～17:00
開催場所	貸教室・貸会議室 内海 東京学院・3階教室 (千代田区三崎町)

議案	第1号議案	2008年度事業報告の承認について
	第2号議案	2008年度決算報告の承認について
	第3号議案	2009年度事業計画(案)の決定について
	第4号議案	2009年度予算(案)の決定について
	第5号議案	会費値上げについて
	第6号議案	JHF役員の選任について

(2) 理事会

ア	第1回理事会	開催日	5月 8日(出:理事6、監事1 欠:理事1、監事1)
イ	第2回理事会	開催日	7月27日(出:理事9、監事1 欠:0)
ウ	第3回理事会	開催日	9月10日(出:理事8、監事1 欠:理事1)
エ	第4回理事会	開催日	11月19日(出:理事7、監事1 欠:理事2)
オ	第5回理事会	開催日	1月19日(出:理事6、監事1 欠:理事3)
カ	第6回理事会	開催日	3月25日(出:理事7、監事1 欠:理事2)

(ア:選挙前につき理事8名、監事2名、イ～カ:理事9名、監事1名)

(3) 委員会

- ア ハンググライディング競技委員会 競技会開催時に実施
- イ パラグライディング競技委員会 競技会開催時に実施
- ウ 補助動力委員会 9/29
- エ 教員・スクール事業委員会
- オ 安全性委員会
- カ 制度委員会
- キ 選挙管理委員会 5/12、5/20
- ク 三法委員会 10/29、11/16

上記のほか電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

(1) 普及振興活動

- ア JHF レポートを発行 (2010/6月)
- イ 都道府県連盟事業費の交付
- ウ 日本学生フライヤー連盟へ助成金交付

(2) フライヤー会員登録

登録数：2009年度 6,182人 (新規・更新)
2008年度 6,039人

(3) 技能証発行

- ア HG： 163枚 (2008年度 255枚)
- イ PG： 1,365枚 (2008年度 1,515枚)
- ウ MPG： 59枚 (2008年度 48枚)
- エ レスキューリパック認定証 101枚

(4) 競技会の主催・公認・後援

- ア HG： 14件 (内FAIカテゴリーⅡ：2件)
- イ PG： 35件 (内FAIカテゴリーⅡ：4件)
- ウ HG・PG同時開催： 7件

(5) 競技会の開催

- ア HG：
 - ① 日本選手権
2009年3月18日～22日 和歌山県紀の川フライトパーク
参加62人 (内女子9人) 不成立
 - ② ハンググライディングシリーズ
有効成績者数 73人 1位 大門浩二
- イ PG：
 - ① 日本選手権
2009年 5月2日～6日 徳島県吉野川エリア
参加80人 (内女子13人)
日本選手権者：村上修一 女子：平木啓子
 - ② アキュラシー日本選手権
2009年12月5日～6日 静岡県朝霧
参加34人 (内女子8人)
日本選手権者：山谷武繁 女子：菊田久美
 - ③ ジャパンリーグ・WPR： 有成績者数 77人 1位：武貞伸明
女子： 有成績者数 11人 1位：平木啓子
ジャパンリーグ・NPR： 有成績者数102人 1位：上山太郎
女子： 有成績者数 15人 1位：中目みどり

ジャパンリーグ・NPR・シリアル：

有成績者数 54人 1位：関口典彦
女子：有成績者数 13人 1位：中目みどり
ジャパンリーグ・国際選抜：有成績者数 97人 1位：上山太郎
ジャパン2リーグ：有成績者数 30人 1位：加賀山務
女子：有成績者数 5人 1位：高田奈緒
クロスカントリーリーグ： 1位：竹内俊二

アキュラシージャパンリーグ・スクラッチ：

有成績者数 33人 1位：岡芳樹
女子：有成績者数 6人 1位：茂呂可寿美

アキュラシージャパンリーグ・ハンディキャップ：

有成績者数 31人 1位：横井清順
女子：有成績者数 6人 1位：茂呂可寿美

(6) スクール・エリア情報の収集及び公開

ア スクールサイト登録校 135件 (うち新規登録校 10件)
イ エリア情報掲載 174件

(7) 海外関係団体活動

CIVL総会 2010年2月20日～21日
スイス ローザンヌ 出席者：デレグイト 岡芳樹

(8) 世界選手権へのチーム派遣

ア 第17回ハンググライディング・クラスI世界選手権 参加選手：4名
2009年6月20日～7月4日 フランス ララーニュ
ア 第5回パラグライディング・アキュラシー世界選手権 参加選手：7名
2009年6月20日～27日 クロアチア イヴァネッツ

(9) その他

ア 機体型式登録 13件 (PG)
イ セーフティーノーツ追加 8件
ウ レジャー航空無線機貸与 延38件 2, 143台
エ AED貸出 12件 ポロジメーター貸出 2件
オ フライヤーのための傷害保険「JHF総合保障制度」加入者数：824名

添付： 2009年度 委員会等活動報告補足

以上

< 2009 年度委員会等活動報告補足 >

I ハンググラディング競技委員会 委員長 板垣 直樹

- 1) WEB登録によるエントリーの簡素化
- 2) 委員会ホームページの運営
大会公認案内、エントリー案内等の更新は随時実施。
- 3) 第17回ハンググライディングクラスI世界選手権への選手派遣
2009年6月20日～7月4日 フランス ララーニュ
5名参加 国別第9位
- 4) 2009年日本選手権開催(紀ノ川) 2009年3月18日～22日
62名参加。タスク1本のみでの成立で日本選手権としては不成立。
- 5) ハンググライディングシリーズ管理運営
1位: 大門浩二、2位: 平林和行、3位: 氏家良彦
女子1位: 礪本容子

II パラグライディング競技委員会 委員長 岡 芳樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) WEB事務局・ホームページ管理
- 3) Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
 - ・ Jリーグ結果(参加人数119名)

WPR	1位: 武貞伸明、	2位: 若山朋晴、	3位: 平木啓子
WPR女子	1位: 平木啓子、	2位: 中目みどり、	3位: 伊藤弥生
NPRオープンクラス	1位: 上山太郎、	2位: 武貞伸明、	3位: 若山朋晴
NPRオープンクラス女子	1位: 中目みどり、	2位: 伊藤弥生、	3位: 河村葉子
NPRシリアルクラス	1位: 関口典彦、	2位: 山口翔、	3位: 豊島滋
NPRシリアルクラス女子	1位: 中目みどり、	2位: 伊藤弥生、	3位: 青木あや子
 - ・ J2リーグ(参加人数35名)

総合	1位: 加賀山 務、	2位: 山口 祐介、	3位: 高田 奈緒
女子	1位: 高田 奈緒、	2位: 川名 美江、	3位: 井川 絵美
 - ・ XCリーグ(86本)

1位: 竹内俊二(327.7km)、2位: 山田由紀夫(254.3km)、3位: 中井正人(247.2km)
最長フライト: 竹内俊二(113.3km)
 - ・ AJリーグ(参加人数38名)

スクラッチクラス	1位: 岡芳樹、	2位: 横井清順、	3位: 加賀山務
スクラッチクラス女子	1位: 茂呂可寿美、	2位: 菊田久美、	3位: 稲田瑞穂
ハンディキャップクラス	1位: 横井清順、	2位: 山谷武繁、	3位: 古賀光晴

ハンディキャップクラス女子 1位：茂呂可寿美、2位：稲田瑞穂、3位：高橋さゆり

4) 2009年度日本選手権開催（徳島県吉野川エリア）2009年5月2日～6日

タスク2本成立/5日 80人参加

総合1位：村上修一、2位：武貞伸明、3位：平木啓子、4位：豊島滋、5位：薮哲行、
6位：岩谷勝弘

女子1位：平木啓子、2位：伊藤弥生、3位：高田奈緒

シリアル1位：豊島滋、2位山口翔、3位関根靖明

5) 2009年度アキュラシー日本選手権開催（静岡県朝霧）2009年12月5～6日

8ラウンド成立 34人参加

総合1位：山谷武繁、2位：横井清順、3位：文字英彰、4位：山本直哉、
5位：塚原隆信、6位：森山拓

女子1位：菊田久美、2位：茂呂可寿美、3位：稲田瑞穂

ハンディキャップ1位；山谷武繁、2位山本直哉、3位横井清順

6) 第5回パラグライディング・アキュラシー世界選手権（クロアチア、イヴァネッツ）

2009年6月20～27日に代表チーム派遣

総合1位：ザン・シュンペン（中国）、2位：チャン・ハイピン（中国）

3位：オンドラシュェック・マーチン（チェコ）、4位：フェラリ・マティヤ（スロベニア）

5位：ショー・アンディ（英国）、6位：ジュヴァノスキ・ミレ（マケドニア）

21位：岡芳樹、24位：川村眞、36位：横井清順、43位：山谷武繁、

59位：菅野剛広、67位：本野広子、72位：茂呂可寿美

女子1位：コストヴァ・エレナ（ブルガリア）、2位：トマシコヴァ・マルケッタ（チェコ）、3
位：ビチャニン・ミリチャ（セルビア）

国別1位：スロベニア、2位：中国、3位：ブルガリア、6位：日本

III 補助動力委員会 委員長 須藤 彰

- 1) MPGにおける事故や通報の対応対策（仙台、茅ヶ崎など）
- 2) MPG技能証規程の改定検討
- 3) MPG教員検定の検討
- 4) フライヤー会員登録の推進

IV 教員・スクール事業委員会 委員長 岩橋 亘

- 1) 教員助教員更新講習会開催
13箇所で開催 84名受講
- 2) 教員検定会開催 14名受検

- 3) 教員資格者公募により4名に教員経歴証明を授与
- 4) パラグライダー教本改訂
- 5) JHF技能証規程改訂
- 6) JHFレスキューリパック認定証制度の実施運用

V 安全性委員会 委員長 桂 敏之

1) 委員会の運用

運用経費の圧縮と効率的な運用を目的として、委員会の開催はメール通信による稟議で行なった。

2) リパック制度の創設

制度委員会、教員・スクール事業委員会も加わって実施案を検討したJHFレスキューパラシュートリパック認定証制度を、4月1日付で立ち上げた。

3) 事故情報のJHFサイト上での発表方法について、事務局と協議して変更した。

4) 機体登録制度の見直し

昨年に続き、JHF登録制度の対応が検討中だったが、2009年度はこの件での作業は行っていない。JHF登録制度については、ハンググライダーは過去3年間、登録申請の事案がない。パラグライダーも過去3年間、1社を除いて登録申請は行われていない。

5) 事故調査

11月8日に発生したHGの死亡事故につき、同月20日に桂委員長を含めたHG専門家4名で、現地調査と事故機の調査を行った。

VI 制度委員会 委員長 小林 秀彰

- 1) JHFに関わる制度の定款、規約、規程、規則等の文書管理
- 2) JHF技能証規程の見直し
- 3) 理事会諮問事項の対応